

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

|      |              |
|------|--------------|
| 学校名  | 専門学校能達工科カレッジ |
| 設置者名 | 学校法人能達学園     |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名    | 学科名   | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|--------|-------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 工業専門課程 | 建築学科  | 夜・通信      | 160                         | 160               |      |
|        | 農業工学科 | 夜・通信      | 162                         | 160               |      |
|        | AI 学科 | 夜・通信      | 270                         | 160               |      |
|        |       | 夜・通信      |                             |                   |      |
|        |       | 夜・通信      |                             |                   |      |
| (備考)   |       |           |                             |                   |      |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.noutatsu.ac.jp>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

|  |
|--|
|  |
|--|

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

|      |              |
|------|--------------|
| 学校名  | 専門学校能達工科カレッジ |
| 設置者名 | 学校法人能達学園     |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.noutatsu.ac.jp>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職  | 任期                             | 担当する職務内容<br>や期待する役割 |
|----------|---------|--------------------------------|---------------------|
| 非常勤      | 会社取締役社長 | 令和5年4月<br>1日～令和<br>8年3月3<br>1日 | アドバイザー              |
| 非常勤      | 会社取締役社長 | 令和5年4月<br>1日～令和<br>8年3月3<br>1日 | アドバイザー              |
| 非常勤      | 日本語学校校長 | 令和5年4月<br>1日～令和<br>8年3月3<br>1日 | 運営相談役               |
| (備考)     |         |                                |                     |

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

|      |              |
|------|--------------|
| 学校名  | 専門学校能達工科カレッジ |
| 設置者名 | 学校法人能達学園     |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

- 1月 授業計画 (シラバス) 案の内容を検討する
- 2月 教育課程編成会議において審議
- 3月 授業計画 (シラバス) の決定
- 3月 シラバスの公表時期3月

授業計画書の公表方法

<https://www.noutatsu.ac.jp>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則(成績評価)により厳格かつ適正に成績評価を実施する。授業科目の成績評価は学年末に行う定期試験、及び実習等の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし出席日数が授業時数の3分の2に達しないものはその科目についての評価は受けることができないことから、日々の学校生活がとても重要であることを認識させていく。つまり日々の授業における自己評価や取り組む姿勢が大事であることを重要視させる。また評価については、相対評価を多用しない。絶対評価を取り入れたい。定期テストの及第点は100点満点で60点とする。ただし、60点以下のものは補習を行う。また、成績評価はA(100点～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、C(70点未満～60点以上)、D(60点未満～50点以上)、F(50点未満～0点)として。本気で学習に取り組む姿勢を身につけさせていく。また失敗があっても常にチャレンジする姿勢を身につけさせていく。

又単位認定については、校内評価委員会を立ち上げ慎重に評価していく。生徒には、何をどのように評価していくかについても客観的に示していく。又シラバスに記載された成績評価の方法・基準を参考にして、生徒自らの成績の状況を把握できるようにする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

○第1学年(生徒数394人)あらかじめ設定した算出方法によりGPA等の数値を算出  
又評価基準は5段階評定A(100点～80点以上),B(80点未満～70点以上),C(70点未満～60点以上),D(60点未満～50点以上),F(50点未満～0点)とする。

○定期テストの及第点は100点満点で、60点を及第点とする。境界線の生徒に対しては、再試の機会を与えていく。厳格適正に単位の授与又は、履修の認定を行うため、定期テスト60%、レポート10%、実習ノート10%、学習意欲・態度、出席日数10%、プレゼンテーション10%としてそれぞれの5段階評定を、点数化し評価する。

本人の成績と評価段階に応じてどのくらいのポイントが付くかの基準を定めておく。

又GPAポイントの最高値がA(秀)4～5ポイント、B(優)3ポイント、(良)ポイント、D(可)1ポイント、F(不可)0ポイントとする。

GPAの数値の算出については、成績ごとのポイント合計を算出し、合計単位で割る(計算式は)ポイントの合計数を履修単位合計数で割る。学生の平均は2.0～2.3程度とする。

|                  |   |
|------------------|---|
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |
|------------------|---|

#### 4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1) 卒業の認定方針の策定・公表適切な実施に係る取り組みの概要

- ・校内卒業認定評価委員会(副校長を委員長として)を設置し2年間の総合的な学業の成果を評価し認定する。

①卒業認定方針の策定は、「学校教育に基づき建築学科、AI学科、農業工学科の向上発展に寄与する人材の育成を目的とする。」ことから、

本校の理念は「学び続ける生徒に未来あり」そして、①グローバルな時代に主体的にたくましく生きる力と、地域社会(特にSDGs)に貢献できる人材の育成。②多様性を尊重し、広い視野で未来を切り開いていく力を持った人材の育成」と定めたこのポリシーに沿って日々の学校生活を有意義に学ばせたい。一つの例としては、SDGsの持つ世界目標を各自がテーマを持って果敢に取り組む姿勢である。失敗があっても挑戦する姿勢である。努力すれば、必ず成し遂げられるという気概を持って有意義な2年間を学ばせたい。そして必ず「ライセンスを獲得するんだ」という意志力を醸成する。卒業認定は様々な角度から認定していくことにするが、教師も生徒と二人三脚で取り組む。

(2) 学則の卒業認定  
本校所定の課程を修了した者には、学習評価の上卒業証書を授与する。

|                  |   |
|------------------|---|
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |
|------------------|---|

#### 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表(専門学校)】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

|      |              |
|------|--------------|
| 学校名  | 専門学校能達工科カレッジ |
| 設置者名 | 学校法人能達学園     |

#### 1. 財務諸表等

| 財務諸表等        | 公表方法  |
|--------------|---|
| 貸借対照表        | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |
| 収支計算書又は損益計算書 | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |
| 財産目録         | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |

|              |   |
|--------------|---|
| 事業報告書        | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |
| 監事による監査報告（書） | <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

| 分野       |    | 課程名                       | 学科名                     | 専門士         | 高度専門士                  |             |             |
|----------|----|---------------------------|-------------------------|-------------|------------------------|-------------|-------------|
| 工業       |    | 工業専門課程                    | AI 学科                   |             |                        |             |             |
| 修業<br>年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総<br>授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類             |             |                        |             |             |
|          | 昼  |                           | 講義                      | 演習          | 実習                     | 実験          | 実技          |
| 2年       |    | 1980 単位時間                 | 1560 単位<br>時間/104<br>単位 | 単位時間<br>/単位 | 420 単位<br>時間/単<br>14 位 | 単位時間<br>/単位 | 単位時間<br>/単位 |
| 生徒総定員数   |    | 生徒実員                      | うち留学生数                  | 専任教員数       | 兼任教員数                  | 総教員数        |             |
| 400 人    |    | 394 人                     | 394 人                   | 5 人         | 16 人                   | 21 人        |             |

|  |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）   |
| <p>（概要）授業計画書（シラバス）の作成過程及び時期</p> <p>1月授業計画書（シラバス）案の内容を検討する</p> <p>2月教育課程編成会議において検討する</p> <p>3月授業計画（シラバス）の決定 授業計画書（シラバス）の公表時期 3月末日</p>   |
| 成績評価の基準・方法   |
| <p>（概要）定期テスト、学習意欲・態度の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により学習成果を厳格適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している</p> <p>（授業科目の学習成果の評価に係る取組の概要）</p> <p>学則（成績評価）により厳格かつ適正に成績評価を実施する。授業科目の成績評価は学年末に行う定期試験、及び実習等の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし出席日数が授業時数の3分の2に達しないものはその科目についての評価は受けることができないことから、日々の学校生活がとても重要であることを認識させていく。つまり日々の授業における自己評価や取り組む姿勢が大事であることを重要視させる。また評価については、相対評価を多用しない。絶対評価を取り入れたい。定期テストの及第点は100点満点で60点とする。ただし、60点以下のものは補習を行う。また、成績評価はA（100点～80点以上）、B（80点未満～70点以上）、C（70点未満～60点以上）、D（60点未満～50点以上）、F（50点未満～0点）として、D、Fの生徒については放課後の補習を行う。本気で学習に取り組む姿勢を身につけさせていく。また失敗があっても常にチャレンジする姿勢を身につけさせていく。</p> <p>又単位認定については、校内評価委員会を立ち上げ慎重に評価していく。生徒には、何をどのように評価していくかについても客観的に示していく。又シラバスに記載された成績評価の方法・基準を参考にして、生徒自らの成績の状況を把握できるようにする。</p> |
| 卒業・進級の認定基準   |
| <p>（概要）GAP分布1.0以上の生徒は、出席日数が足りていれば基本的には卒業認定となるが進路相談を通して、将来を見据えた考えを聞き、本人の学習意欲を高めキャリア教育を推進する。卒業認定会議は一人一人の考えを聞き生徒に沿った判断をする。成績評価はA（100点～80点以上）、B（80点未満～70点以上）、C（70点未満～60点以上）、D（60点未満～50点以上）、F（50点未満～0点）とし、卒業・進級の認定については、校内審査委員会を立ち上げ慎重に審査する。</p>  |
| 学修支援等  |

(概要) (概要) 定期テストの成績だけで否定的な判断をせず、レポートや学習意欲や進学の強い思いを確認しながら、放課後の補修や長期休業日における学習支援を進める

| 卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載) |           |                   |           |
|------------------------------|-----------|-------------------|-----------|
| 卒業生数                         | 進学者数      | 就職者数<br>(自営業を含む。) | その他       |
| 0人<br>(100%)                 | 0人<br>(%) | 0人<br>(%)         | 0人<br>(%) |
| (主な就職、業界等)                   |           |                   |           |
| (就職指導内容)                     |           |                   |           |
| (主な学修成果 (資格・検定等) )           |           |                   |           |
| (備考) (任意記載事項)                |           |                   |           |

| 中途退学の現状            |                |     |
|--------------------|----------------|-----|
| 年度当初在学者数           | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 0人                 | 0人             | 0%  |
| (中途退学の主な理由)        |                |     |
| (中退防止・中退者支援のための取組) |                |     |

| 分野       | 課程名    | 学科名                       | 専門士                 | 高度専門士 |                    |    |    |
|----------|--------|---------------------------|---------------------|-------|--------------------|----|----|
| 工業       | 工業専門課程 | 建築学科                      |                     |       |                    |    |    |
| 修業<br>年限 | 昼夜     | 全課程の修了に必要な総<br>授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類         |       |                    |    |    |
|          |        |                           | 講義                  | 演習    | 実習                 | 実験 | 実技 |
| 2年       | 昼      | 2,040<br>単位時間/単位          | 1440<br>単位時間<br>/単位 |       | 600<br>単位時間<br>/単位 |    |    |
|          |        |                           | 単位時間/単位             |       |                    |    |    |
| 生徒総定員数   | 生徒実員   | うち留学生数                    | 専任教員数               | 兼任教員数 | 総教員数               |    |    |
| 20人      | 0人     | 0人                        | 1人                  | 0人    | 1人                 |    |    |

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

|  |
|--|
| <p>(概要) 授業計画書 (シラバス) の作成過程及び時期<br/> 1月 授業計画書 (シラバス) 案の内容を検討する<br/> 2月 教育課程編成会議において検討する<br/> 3月 授業計画 (シラバス) の決定 授業計画書 (シラバス) の公表時期 3月末日</p>   |
| <p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 定期テスト、学習意欲・態度の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により学習成果を厳格適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している</p> <p>(授業科目の学習成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学則(成績評価)により厳格かつ適正に成績評価を実施する。授業科目の成績評価は学年末に行う定期試験、及び実習等の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし出席日数が授業時数の3分の2に達しないものはその科目についての評価は受けることができないことから、日々の学校生活がとて重要であることを認識させていく。つまり日々の授業における自己評価や取り組む姿勢が大事であることを重要視させる。また評価については、相対評価を多用しない。絶対評価を取り入れたい。定期テストの及第点は100点満点で60点とする。ただし、60点未満のものは補習を行う。また、成績評価はA(100点～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、C(70点未満～60点以上)、D(60点未満～50点以上)、F(50点未満～0点)として、D、Fの生徒については放課後の補習を行う。また、卒業期の課題プレゼンテーションは、できるだけ英語によるプレゼンにする。英語教育にも力を入れていく。本気で学習に取り組む姿勢を身につけさせていく。また失敗があっても常にチャレンジする姿勢を身につけさせていく。</p> <p>又単位認定については、校内評価委員会を立ち上げ慎重に評価していく。生徒には、何をどのように評価していくかについても客観的に示していく。又シラバスに記載された成績評価の方法・基準を参考にして、生徒自らの成績の状況を把握できるようにする。</p> |
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) GAP分布1.0以上の生徒は、出席日数が足りていれば基本的には卒業認定となるが進路相談を通して、将来を見据えた考えを聞き、本人の学習意欲を高めキャリア教育を推進する。卒業認定会議は一人一人の考えを聞き生徒に沿った判断をする。成績評価はA(100点～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、C(70点未満～60点以上)、D(60点未満～50点以上)、F(50点未満～0点)とし、卒業・進級の認定については、校内審査委員会を立ち上げ慎重に審査する。</p>   |
| <p>学習支援等</p> <p>(概要) 定期テストの成績だけで否定的な判断をせず、レポート、実習ノート、学習意欲態度出席日数、卒業プレゼンテーション等を総合的に判断して、教師が常に生徒に寄り添って学習支援をし、実践的な職業教育にも力をいれる。</p>   |

| 卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載) |          |                   |          |
|------------------------------|----------|-------------------|----------|
| 卒業生数                         | 進学者数     | 就職者数<br>(自営業を含む。) | その他      |
| 人<br>(100%)                  | 人<br>(%) | 人<br>(%)          | 人<br>(%) |
| (主な就職、業界等)                   |          |                   |          |

|                    |
|--------------------|
| (就職指導内容)           |
| (主な学習成果 (資格・検定等) ) |
| (備考) (任意記載事項)      |

|                    |                |     |
|--------------------|----------------|-----|
| 中途退学の現状            |                |     |
| 年度当初在学者数           | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 人                  | 人              | %   |
| (中途退学の主な理由)        |                |     |
| (中退防止・中退者支援のための取組) |                |     |

| 分野       |    | 課程名                       | 学科名                 | 専門士         | 高度専門士              |             |             |
|----------|----|---------------------------|---------------------|-------------|--------------------|-------------|-------------|
| 工業       |    | 工業専門課程                    | 農業工学科               |             |                    |             |             |
| 修業<br>年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総<br>授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類         |             |                    |             |             |
|          |    |                           | 講義                  | 演習          | 実習                 | 実験          | 実技          |
| 2年       | 昼  | 2,040<br>単位時間/単位          | 1440<br>単位時間<br>/単位 | 単位時間<br>/単位 | 600<br>単位時間<br>/単位 | 単位時間<br>/単位 | 単位時間<br>/単位 |
|          |    |                           | 単位時間/単位             |             |                    |             |             |
| 生徒総定員数   |    | 生徒実員                      | うち留学生数              | 専任教員数       | 兼任教員数              | 総教員数        |             |
| 20人      |    | 0人                        | 0人                  | 2人          | 0人                 | 2人          |             |

|  |
|--|
| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)  |
| (概要) 授業計画書 (シラバス) の作成過程及び時期<br>1月授業計画書 (シラバス) 案の内容を検討する<br>2月教育課程編成会議において検討する<br>3月授業計画 (シラバス) の決定 授業計画書 (シラバス) の公表時期 3月末日   |
| 成績評価の基準・方法   |
| (概要) 定期テスト、学習意欲・態度の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により学習成果を厳格適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している  |
| (授業科目の学習成果の評価に係る取組の概要)<br>学則(成績評価)により厳格かつ適正に成績評価を実施する。授業科目の成績評価は学年末に行う定期試験、及び実習等の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし出席日数が授業時数の3分の2に達しないものはその科目についての評価は受けることができないことから、日々の学校生活がとて重要であることを認識させていく。つまり日々の授業における自己評価や取り組む姿勢が大事であることを重要視させる。また評価については、相対評価を多用しない。絶対評価を取り入れたい。定 |

期テストの及第点は100点満点で60点とする。ただし、60点未満のものは補習を行う。また、成績評価はA(100点～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、C(70点未満～60点以上)、D(60点未満～50点以上)、F(50点未満～0点)として、D、Fの生徒については放課後の補習を行う。また、卒業期の課題プレゼンテーションは、できるだけ英語によるプレゼンにする。英語教育にも力を入れていく。本気で学習に取り組む姿勢を身につけさせていく。また失敗があっても常にチャレンジする姿勢を身につけさせていく。

又単位認定については、校内評価委員会を立ち上げ慎重に評価していく。生徒には、何をどのように評価していくかについても客観的に示していく。又シラバスに記載された成績評価の方法・基準を参考にして、生徒自らの成績の状況を把握できるようにする。

卒業・進級の認定基準

(概要) GAP 分布 1.0 以上の生徒は、出席日数が足りていれば基本的には卒業認定となるが進路相談を通して、将来を見据えた考えを聞き、本人の学習意欲を高めキャリア教育を推進する。卒業認定会議は一人一人の考えを聞き生徒に沿った判断をする。成績評価はA(100点～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、C(70点未満～60点以上)、D(60点未満～50点以上)、F(50点未満～0点)とし、卒業・進級の認定については、校内審査委員会を立ち上げ慎重に審査する。

学習支援等

(概要) 定期テストの成績だけで否定的な判断をせず、レポートや学習意欲や進学の高い思いを確認しながら、放課後の補習や長期休業日における学習支援を進める

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名           | 入学金       | 授業料<br>(年間) | その他       | 備考 (任意記載事項) |
|---------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| 建築学科          | 100,000 円 | 660,000 円   | 180,000 円 |             |
| 農業工学科         | 100,000 円 | 660,000 円   | 180,000 円 |             |
| AI 学科         | 100,000 円 | 660,000 円   | 180,000 円 |             |
|               | 円         | 円           | 円         |             |
| 修学支援 (任意記載事項) |           |             |           |             |
|               |           |             |           |             |

b) 学校評価

|   |
|---|
| 自己評価結果の公表方法   |
| <a href="https://www.noutatsu.ac.jp">https://www.noutatsu.ac.jp</a> |
| 学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)  |

学校自ら自己評価を行い、企業・業界団体が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し評価結果に沿って校長自ら学校運営体制の改善を図る。1, 評価項目（教育課程、進路指導、学校運営、学習成果、学生受け入れ、就職

学校関係者評価の委員

| 所属    | 任期                        | 種別              |
|-------|---------------------------|-----------------|
| 倉持 伸樹 | 2024年3月1日から<br>2025年4月30日 | 専門学校能達工科カレッジ副校長 |
| 横田 和己 | 2024年3月1日から<br>2025年4月30日 | 茨城県教育センターアドバイザー |
| 秋山 優子 | 2024年3月1日から<br>2025年4月30日 | 保護士             |
| 岡 宣子  | 2024年3月1日から<br>2025年4月30日 | 元白山小学校教頭        |
| 佐藤 隆二 | 2024年3月1日から<br>2025年4月30日 | 市議会議員           |

学校関係者評価結果の公表方法

<https://www.noutatsu.ac.jp>

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

<https://www.noutatsu.ac.jp>